

リハビリテーション治療学特講

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○吉田 晋 ysdsm@hoku-iryu-u.ac.jp 坂上哲可 tsakaue@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

神経科学や制御工学といった隣接科学の進歩を背景に、リハビリテーションの方法論も大きく変化してきている。特に神経科学を背景としたニューロリハビリテーションやロボティクスを用いたアプローチの進歩は著しく、近年神経系の可塑性を促進する様々な方法やリハビリテーション機器が開発されている。しかしながらその適応や効果など未解明な点も多く、確かなエビデンスは得られていない。本特講ではこうした最新のリハビリテーション手法についてレビューし、ディスカッションを通じて理解を深め、リハビリテーションの可能性を検証する。

【学修目標】

一般目標：最新の学術論文をレビューし、批判的吟味する能力を身につける。

行動目標：

1. 神経科学領域の論文を抄読し、レビューができる。
2. ニューロリハビリテーションの手法や効果の範囲について説明ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	文献レビューの進め方等について説明する。	吉田 晋
2~15	神経科学領域の文献抄読	文献レビューおよびディスカッション	吉田 晋 坂上哲可

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業内でのプレゼンテーション50%、ディスカッションでの発言内容50%により総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

関連分野の文献等を各自調査し学習すること。

予習では、文献検索・分析とプレゼンテーションの準備をしておくこと（80分）。

復習では、質疑応答の内容および担当教員の助言を整理すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけている。

DP3. 研究成果を国際的な水準で学術的に発信し、国内外におけるリハビリテーション科学の発展に寄与できる能力を身につけている。

【実務経験】

吉田 晋（理学療法士） 坂上哲可（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での臨床経験をもとに講義を行う。